

## 議会報告会・意見交換会記録（第13回）

1 日 時 平成31年4月18日（木） 午後 7時00分 開会

2 場 所 和田コミュニティセンター

3 出席委員 13名

議 長	植 木 茂	議 員	佐 藤 栄 一
総務文教委員	横 尾 祐 子	〃	村 越 洋 一
総務文教委員	霜 鳥 榮 之	〃	関 根 正 明
建設厚生委員長	堀 川 義 徳	〃	山 川 香 一
建設厚生委員	太 田 紀己代	〃	高 田 保 則
産業経済委員	岩 崎 芳 昭	〃	小 嶋 正 彰
産業経済委員	樗 沢 諭		

4 欠席委員 0名

5 市民出席者 29名

6 事務局員 2名

局 長	築 田 和 志	係 長	堀 川 誠
-----	---------	-----	-------

7 件 名

議会報告会・意見交換会

- 1) 開 会
- 2) あいさつ 議会報告
- 3) 意見交換 「子育てについて」「農業について」
- 4) 閉会あいさつ
- 5) 閉 会

1. 開 会

○司会（高田保則） 皆さん、こんばんは。大変お忙しい中、大変大勢の皆さんからお集まりいただきまして、大変にありがとうございます。今回初めて和田地区にお邪魔しまして、これから開催させていただきます。きょうの司会進行を務めさせていただきます。妙高温泉出身の高田でございます。よろしく願いいたします。妙高市議会では、平成27年3月に議会基本条例を制定しまして、それに基づき、開かれた議会を推進するという取り組みの一つとして、今回のような議会報告会、意見交換会を開催しております。本年は16日からきょうまで3日間、16日は妙高高原、17日は妙高地区。きょうは新井地区ということで開催させていただきます。本日は担当議員が前におりますが6名ということで、あと補助員として議員6名が後ろに控えております。そういうことで合計12名できょう開催させていただきます。最初に担当議員の自己紹介をお願いしたいと思います。

○総務文教委員（霜鳥榮之） 皆さんこんばんは、総務文教委員の霜鳥と申します。大勢の人が来てくれたのでどんな話があるのか楽しみにしております。よろしく願いいたします。

- 総務文教委員（横尾祐子） 皆さん、こんばんは、総務文教委員の横尾です。きれいなコミュニティセンターで、きょう皆さんと質問したり、かわしたりすることを楽しみにしておりました。どうぞよろしくお願いします。
- 建設厚生委員（太田紀己代） 皆さんお疲れさまでございます。大変いい天気で、ひょっとしたら農作業をなさっておられた方もいるのではないのでしょうか。きょう私この場に来させていただきました。とっても明るい地域だというふうに伺っております。ぜひとも皆さまからの御意見お伺いして勉強させていただきたいと思います。太田紀己代でございます。よろしくお願いいたします。
- 建設厚生委員（堀川義徳） 皆さんこんばんは、今議会の中で建設厚生委員長ということで、委員長をさせていただいておりますが、きょうはあくまでも議員6分の1ということでもありますので、御手やわらかにお願いします。堀川義徳です。よろしくお願いいたします。
- 産業経済委員（岩崎芳昭） 皆さんこんばんは、産業経済委員会副委員長を務めさせていただきます岩崎芳昭と申します。和田地区ということで同級生も何人か聞き来るかなあとと思ったんですが、知っている顔が何人かいらっしやること、うれしく思っております。きょうはよろしくお願いします。
- 産業経済委員（樗沢 諭） こんばんは、産業経済委員の樗沢でございます。本日は明るい建設的な御意見を伺ってまた、議員活動に役立てていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。
- 司会（高田保則） ありがとうございます。この議会報告会・意見交換会につきましては、後日会議録の作成を予定しております。参加者の皆さんの個人名は公開されませんが、質疑や意見交換における皆さんや議員の発言につきましては会議録としてホームページに公開させていただきますのでよろしくお願いいたします。また、質疑や意見交換で発言される場合には、最初にお住まいとお名前を発言をしてからお願いしたいと思います。また、お手元に配付させていただいたアンケートについても、この会が終わりましたら提出をお願いしたいと思いますし、机の上にもおいていただければ結構でございます。本日は報道機関、私ども議会事務局で撮影をさせていただきます。後日皆さんの様子等がもしかしたら新聞に出るかもしれませんし、議会報に出るかと思っておりますのでその辺をよろしく御承知をお願いしたいと思います。それともう一つ、きょうこの後の皆さんの予定もありそうですので、8時20分頃終了ということで予定しておりますのでよろしくお願いします。今前に議員正座させていただいてますが、会議中は足を崩させていただきますのでよろしくお願いします。それでは只今から議会報告会・意見交換会を開会いたします。お手元に配布させていただきましたレジメに沿って進めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

---

## 2. あいさつ 議会報告

- 司会（高田保則） はじめに、植木茂議長より御挨拶をお願いします。
- 議長（植木茂） 皆さんこんばんは、議長を仰せつかっております植木でございます。きょうは、よろしくお願いします。本日大変お忙しい中、このように多くの皆様方から御参集いただきまして、議会報告会・意見交換会が出来ます事大変うれしく思っております。また日頃より当市の議会活動につきまして御理解と御協力を賜りましたことを心よりお礼を申し上げます。

さて、私の方から本日開催の議会報告会・意見交換会の趣旨と目的を簡単に説明をさせていただきます。まずは市民の皆さんに議会の取組について知っていただくとともに、市民の皆さんとの情報の共有、意見交換の機会を設けさせていただいております。皆様より頂いた意見を市長並びに執行部に伝えるだけでなく、議会の活動に繋げて参りたいと思っております。これからはまちづくりの政策決定過程への市民への参加が重要になってくると思っ

います。今後も最良の妙高市へ導くために、妙高市の皆様方の意見を議会として政策提言につなげていく所存でございますのでよろしくお願いいたします。ぜひとも忌憚のない意見をお聞かせいただきたいと思っております。それでは3月定例会に置けます審議について簡単に述べさせていただきます。平成31年の予算、主要事業の概要や質疑等について、簡単に説明させていただきます。皆様方のお手元にA3の資料があると思っております。この中にある1枚ものの資料の中には妙高市の現状、人口の推移、世帯数の推移が載せてあります。もう片面は平成31年度予算、今年度は201億6000万や市の借金、貯金の資料となっております。参考資料として、参考資料としてごらんいただきたいと思っております。見開きの平成31年度予算・主要事業の概要をごらんいただきたいと思っております。市長からは平成31年度、大きく五つの方針により取り組みを進めると説明がございました。方針1としましては「安心して子どもを育み暮らし続けられるまちづくりの推進」、方針2としまして「地域資源を活かした交流人口の拡大」、方針3としまして「安心して生活できる健康長寿のまちづくりの推進」、方針4としまして「支え合う、地域協働のまちづくりの推進の整備」、方針5として「未来へつなぐ持続可能な地域基盤の整備」の五つの方針であります。未来の子どもたちのためにどう夢を描いていくのかを常に考えながら、次世代へしっかりとつなぐために必要な施策を重点的・戦略的に推進していくとの説明がございました。

5つの方針の中から1つ取り上げますが、方針1の安心して子どもを育み、暮らし続けられるまちづくりの推進について説明を申し上げます。最重要課題である人口減少対策の原点は、市民の皆さんが安心して子どもを育み、暮らし続けられるまちを創りあげることです。このため、子どもを育むために必要な負担を個々の家庭から社会全体で支え合うシステムに移行して、子育てしやすく、たくましい子どもが育つまちづくりを推進していくとの説明がございました。

方針1の資料をごらんいただきますと、資料の左上、網掛けしてあるところ2つ目、学校給食運営・食育推進事業の下に、平成31年度からの新たな取り組みが記載されています。市内の小・中・特別支援学校で、給食の主食代、米、パン、麺についての無償化します。このことについて、常任委員会で質疑も行われております。委員からは、米、パン、麺の地産地消や使用状況はどのようかとの質疑に対しまして、こども教育課長は、米は地元産コシヒカリで対応し、野菜も可能な限り、地元調達している。米粉パンは地元産の米粉を使ったものを提供しているとの説明がございました。

このほかにも、31年度予算が有効に使われ、市民生活の向上につながるよう多くの質疑等が行われましたが、時間の都合がございますので、簡単ではございますが議会報告とさせていただきます。本日は、よろしくお願いいたします。

○司会（高田保則） ありがとうございます。次に意見交換会に入らせていただきたいと思っております。今回は会場ごとにテーマを設定させていただきました。今回のこちらの会場のテーマを設定させていただきましたが、こちらの会場のテーマは今議長からお話がありました。子育てについて、もう一つは農業について、子育てについては唯一妙高市内でも人口増加地帯ということで、お聞きしております。子育てについてよろしくお願いします。農業についても近くで圃場整備が行われるという話も聞きますので、そういうことも含めて御意見をいただければと思います。日頃思っていることを御意見のある方については、挙手をお願いしまして、マイクをお持ちしますので、地区とお名前を述べてから御発言のほどお願いいたします。二つのテーマ以外でも結構ですので、御意見等ありましたら発言をお願いします。御意見に関しては前の6人、日ごろの議員活動を含めて答弁させていただきますのでよろしくお願いします。それでは意見交換会に入らせていただきます。まず、子育て、農業問題どちらでも結構ですので、御意見のある方は挙手をしていただいて、発言をお願いします。

○市内男性A ○○の○○○○です。私も農業の問題についてちょっとお聞きしたいんですが、今まで減反政策があったんですが、昨年からは減反政策がなくなった途端にですね、耕作放棄地が栗原の場合多くなっている状況にあるんです。前から山沿いでは結構たくさんありましたけども、これはね、最近の日報にも限界集落とか、農業どうするかっていうのは話題になっていますけども、この辺私個人でどうこうするわけにはいきませんが、議会ではどのような方向で進んでいくのかということを知りたいのですが、その前に私個人的なことでちょっとPRさせていただきたいんですが、何でそのようなことといわれるかもしれませんが、実は平成17年から子どもさんを相手に、田んぼアートづくりをやって、子どもさんに農業の大切さを教えているってのは、ちょっとオーバーですが、やってきて今年も先日学校とも打ち合わせをして、今年もやる予定ですが、平成17年ですから今年15年目になるんですかね。そのことによって子どもさんが農業の大切さ、農業を勉強したからそのお子さんが農業に着くとは限りませんが、お米の大切さ、野菜の大切さをわかっていただければということで、毎年やってきているんですが、ちょっとPRで申し訳ないんですが、実は15年目になるんですが、色々な面で、実は実費でやっているの、金額的にかかるんですが、この辺市のほうで多少補助なり、予算いただけるものなのかな、ここまで来たので止めるわけにもいきませんので、今年もやる予定なんですけども、そんなことで耕作放棄地の対策として、そういうアートでもいいし、コスモス植えるのもいいし、ひまわり植えるのもいいと思いますが、そういう方向をですね、市としてどのような考えがあるかお願いしたいんですが、よろしくお願いします。

○司会（高田保則） ありがとうございます。今この地区も問題になっている高齢化に伴う後継者不足から耕作放棄地の解消、国でも対策を取っているんですが、その辺御意見、岩崎議員よろしくお願いします。

○産業経済委員（岩崎芳昭） 今ほど○○さんからの話で、私も国道をとおるときに田んぼアート見て毎年素晴らしいなと感じているところです。妙高市の農業の基幹作物というのがやっぱり皆さんがつくってお米だと思います。耕作放棄地という関係はいわゆる高齢化、もう一つは担い手不足、それとともに米の値段が非常に低迷している。そこら辺が若い人たちにとってなかなか農業に対する魅力が少ないのかな。平場のみならず特に中山間地のほうで大きいなと思います。そんな中で昨年からは通常の農業委員のほかに、農地適正化推進委員という形で、農業委員会のほうで耕作放棄地を少しでもなくしたり遊休農地を活用するような対策を、行政も真剣に取り組んでいるところです。それともう一つは、今のお金がからむ一つの方策としてはですね、妙高市の総務課のほうで地域の元気づくり事業という形の補助金、助成制度があります。それは単発でやる場合は確か上限が5万円位、例えば3カ年継続事業とそんな形の取り組み形で市の補助制度があります。ただ100%補助じゃなくて、事業費の8割補助そんなような形の補助制度もあります。今上町の市民活動協働センターですか、そこで地域づくりの関係で御相談いただければ、いろんな情報なりヒントを頂けるとと思いますので、ぜひ伺っていただければと思います。

○司会（高田保則） ○○さんいかがでしょうか。

○市内男性A 参考にさせていただきます。

○司会（高田保則） よろしくお願いたします。ほかにございますか。日頃思っていることで結構でございますので、ぜひお願いします。はいどうぞ。

○市内男性B ○○○の○○と申します。今年度から圃場整備が始まって、これから田んぼも能率的に活性化していくんじゃないかと思っているんですが、堀川議員にも一昨年か御相談して、広島のコミュニティセンターなんですけど、トイレが問題になりまして、若いお母さんたちが広島のコミュニティセンターのトイレが一個しかないんですわ。男女共用になっていて、議員にも相談しながら見積もりを取って見たんですが、補助率がちょっと少なくて地元負担もあって断念したことがあるんですが、補助率をもう少し10割とは言いませんが、補助率を8割程度まで

上げていただければ、地元負担で何とか改善していきたいと思っておりますが、またお願いしたいと思っております。

○司会（高田保則） 公民館関係の問題です、総務文教委員よろしくをお願いします。

○総務文教委員（横尾祐子） 今ほどの〇〇〇〇の〇〇さんの、広島コミュニティセンターのトイレ、男女共用ということで女性も嫌ですし、男性もやだと思うんですね。補助率がどれくらいかということなんですが、6、4ぐらいたと思うんですが、4割が妙高市、6割が自治会だと思うんですけど、これに対しては常に要望をしていただくことで良いかと思います。きょうはお伺いすることで、行政に話ししときますので、またお見えになって要望してください。こちらからも力添えできるような形で要望してまいります。

○司会（高田保則） 〇〇さん、よろしいでしょうか。そういうことで、ぜひ、これから頻繁に行ってください。ほかにございませんでしょうか。今、圃場整備の話が出ましたが、その辺の件についていかがでしょうか。

○市内男性C 今までそういう話ありましたが、市街地の農地がこれから大きな問題になってくると思う。特に〇〇さん先ほど話し出しましたが、耕作放棄地がふえている。柳井田も耕作放棄というか、借り手がなくて、去年もすったもんだして、登録したんですけど、圃場整備ができる地区は、これからそれでも何とか管理していかれるのかなというふうに思っていますけど、それ以外の農振除外地の市街地農地をこれからどういうふうを守っていくかというのは大きな課題になってくるんじゃないかなと思います。農振除外地は補助っていうのが全くないというか、ないから小さくても手が付けられない。ほかで聞いたんですけど、田んぼを大きくするために畔吹きすると補助金が出るよということで、田んぼを耕作しやすくして、借り手に貸し出して、管理をするようにするとき聞いています。妙高市にもそういう補助金等を考えてもらえないかと申したんですけど、全く回答がないんです。

それともう一つ和田地区のほうは、最近非常に人口がふえている。ふえているのはふえているんですが、他地区からきているということだけで、将来的に本当に子育てをしていくには、仕事っていうか就職するいいものがないとやはりこの地域に残らないし、将来的には老人家庭がふえていく方向になっていくんじゃないかなと思いますので、市としても検討しながら対策立てて行ってほしいと思います。

○司会（高田保則） 今二つ質問があったと思うんですけど、市街地域の水田農業をどうするかって、これは農業振興地域に入っていれば別ですが、多分そういう環境は入っていないという対応の仕方。もう一つは子育てについてきょうのテーマについてでございます。二つ質問でございますが、市外地域の農業問題について。

○産業経済委員（樗沢諭） 産業経済委員会として、今年の予算等に乗っております、担い手確保ということで、農業というのはつないでつないで、継続して耕作をしていくっていう形が大事なんですけど、なかなか継続が難しいというのは間違いがない事実でございます。そういう中であって、中山間地における耕作放棄地の問題でございますが、今ほど御指摘のあったですね、私は美守なんですけども、私の家の周りにも田んぼがございます。そういう中で、実際自分でやられる田んぼもありますし、委託をして多くをまとめながら各所にやられている方に頼って、田んぼをしているという形もあるということでもありますけども、それをなんとか新しい担い手確保ということで、妙高市としては青年就農支援事業ということで、50歳未満で独立して自営就農を目指す方に対してですね、最長5年、年間最高150万円を交付するとか、新規就農資金交付事業ということで、これは50歳から55歳未満の独立を目指す方にたいして、年間最高75万円が交付されるという形の支援策、そしてまた今年から新しく始まった支援策としましては、新規就農者等の農業機械導入の支援事業と、これは妙高市単独の事業でございますけども、農業機械を購入するのに非常に大きな金がかかるということで、これに対して補助金を交付するという側面から応援していくという形の制度も取り入れているということでございます。こういう新しい内容をやりながら新規の人を

集めていくことも重要な点でございますけども、私たち農家の人たちもそうですが、生計を立てるにはある程度の収入を確保するような農業の所得の向上策も必要だと考えております。議会としても、議員は農業所得の向上について質問もしております。そういう中で平成 25 年度の一人当たりの所得額が 193 万円ぐらい。こういう形で、これが年々上がっていきなさいけないんですが、平成 31 年度も目標 300 万円に対して年々少し下がっているということで回答できないという話もあります。そういう状況でありますので担い手への農地の集積というのは厳しい状況にあると感じています。またしっかり勉強しながら皆さんの声を聞いて取り組んでいきたいと考えています。

○司会（高田保則） もう一つ子育て環境の点で、総務文教委員をお願いします。

○総務文教委員（霜鳥榮之） 子育て支援の関係で、係でもって少しずつ前進はしてきております。環境と言ったときに、地域的な面と制度的な面とありますが、制度的な面で言いますと、育児というか生まれたての子どもたちの難聴問題を検査するというのが、今までは検査したんだけど補助金を出していなかった、だけど新年度からは生まれた子ども全員の難聴検査をやる、それについての補助金が出される。それから給食の関係については、今年 10 月からではございますが主食、今ほど A 3 の資料にも書いてありますが、10 月から主食をただにする。従って保護者の負担が大幅に減るよということになります。医療費の関係でいきますと、今まで高校まで医療費は入院、通院無料っていうふうになっていたんですけど、しかし、窓口で支払う一部負担金というのがございました。この一部負担金も今年 10 月から無償になります。ということで医療関係では安心してお医者さんにかかれるよということになるわけです。医療機関の問題については、建設厚生になりますけど、それに合わせて頸南病院の充実も図っていかなくちゃいけないと思っています。以上でございますがよろしくをお願いします。

○司会（高田保則） よろしいでしょうか。再質問ありましたら、次に質問をお願いします。

○市内男性 D 子育てについて堀川議員にお願いしたいとおもうんですけども、おかげさまで昨年、和田地区ににじいるこども園ができて、138 名だったかな、この間入園式に行ってきましたけど、地域はほとんど和田地区が多い。園長さんにお聞きしましたら、第三保育園、斐太、矢代統合して今新井小学校のあの辺にできるという話を聞きましたけど、街うちの人から考えれば、私も 13 年前に上町に住んでいました、まるっきり人通りがありません。昨年の 7 月に私ら隣の店閉じて、ほんの人が通るのは六・十市くらいのもんです。私も議員からいろいろお話を聞きまして、和田地区は妙高市の 1 割以上の方が住んでいると。例えば、上越市は 13 市町村が合併して、牧村、清里、浦川原、名立、中郷と 880 人ばかりの人口の差なんですよ。しかし、それだけの人がいて、昔でしたら村長さんいて、或いは首長さんいて、行政が行ってきたんですけど、現在これだけの地域において、街うちの話を聞きますと、〇〇さんおまんたんとこいいね。通いなるの近くて、それでいて妙高市の 1 割以上の方がいらっちゃって、いつもネオンサイン出ている。街うちに行ってもネオンサインが見当たりませんでしょ。おかげさまでこの地域子育て問題については、私申し上げましたが、こんなに将来住みよい街はないと自負してます自分自身。今後街うちの中で活性化するには、おととい環境対策協議会、私委員をしている関係で、中町の区長さんにお会いしましたら、今年の町祭り二人だって、自分の孫だけであと小学生がいないだって、今度参加しますとそういう状態になっているわけで、街うちも大事だけど、この地域が地域として発展していくには、きょう先輩のお母さん方後ろに二人いらっちゃいますけど、子育てが終わって、そういう方の意見を聞きながら、地域を盛り上げていきたいと思っています。この問題については副議長の横尾さんに振るんですけど、これについて、どういうふうにお考えになっておられますか。どうかお聞かせ願いたいと思います。

○建設厚生委員長（堀川義徳） はね馬アリーナの隣に新しい保育園を建てるという計画を立てているんですが、実は今回妙高市の新しい事業で、昔地域支援センターというところがあったんですが、今回ここのお手元の資料の方針

4に地域づくり協働センターということにして、新しい部署を総務課直轄でつくったんですよね。これは、何でかと言うと、私前もお話ししたかもしれませんが、ずいぶん前から南部地域はですね、高齢化が進んで、若い人がいなくて地域の存在自体が危ないということで、協力隊等を入れていったんです。少しは良くなったと思うんですが、そうこうしているうちに、そういうふうに地域のことを地域で考えて、将来どうするんだということを真剣に考える人材が、既に街中にもいなくなっているということがわかって、これは大変だということで、今回総務課直轄で、とにかく市の職員が地域に入って将来の地域をどうするんだと、地域の人が真剣に考える体制づくりをしようというような組織ができあがりました。私も思うんですが、日本中どこ行っても子どもを産める女性の数が減るということは、人口減少はどうしようもないです。今、市でも一方では人口を増やすための子育て政策をしていますが、一方人口を増やす政策の中で、人口が減って高齢者が増えてもちゃんと持続していけるような社会をつくるという意味で、妙高市も201億6000万の予算を組んだんですが、結果的にどういうことかと言いますと、地域のことは行政に任せておくと、とんでもないことになってしまうことで、地域で立ち上がろうというような呼び水を今回協働センターというところの職員が入り込んでやるってことなんです。そういうふうに、よし、この地域をなんとかしようという人がいるところはいいんですが、いないところはどうするんだということで、非常に今問題になってるんですが、とにかく子育てというジャンルだけでなくこの地域をどうするかということ地域が真剣に考えないと、今までみたいに市役所が何とかしてくれるだろうという時代ではなくなっていると、そういうことをこの地域であれば水害とか子どものうちから地域のことに興味を持ってというような教育が、学校だけじゃなくてことで、地域全体でやっているということなので、そういった意味で続けていけばいいですし、先ほどの〇〇さんの田んぼアートも学校も巻き込んでいるわけですよね。予算ということであれば、北小学校のコミュニティスクールも関係あるんで、和田のコミセンから入っているやつも、コミュニティスクールで一括管理するということでそこから予算も出ると思うので、そういった形で地域がひとつになって子育てもそうですし、いろんなお年寄りの見守りもそうだという、原点に戻るといところが、今後いろんな意味での少子化の対策に少しでもプラスになるのかなと思っています。以上です。

○総務文教委員（横尾祐子） 〇〇さんのおっしゃるとおり、まちなかでは、小学校に上がる子どもがいない。私が生まれたのは田町ですが、ほとんど子供会はなくなって、新井祭りに出る人もいない。子どもがいないということで保護者のおじいちゃん、おばあちゃんも張り合いがないということで、先ほどイスの準備していたんですが明日は歓送迎会で使うんだと、私も中央小学校なんです。あす歓送迎会あるんですが、学校がなくなったところは歓送迎会にも出れない、そんなようなところが街うちにあるんですね。幼稚園でも統合園ということで経塚山地域にあるさくら園、諏訪町、美守、関川町、石塚が通うよつば園、そしてまたにじいろ保育園ということで、三つの統合園ということで幼稚園保育園も統合する時代になっちゃったんですよね。そういう面では和田地区については、羨ましい限りです。やはり働くお母さんがいるということで、昔の和田保育園を見させて頂いたときには、未満児が入れなくて、上の子は和田に入れるけど、下の子は斐太のほうへ行くんだというお母さんが、2箇所を回って保育園に通わせているということもあって、にじいろということで今もどどんふえてるということは、羨ましいと思います。そういう子どもたちを上手に育てて、あとは雇用、働く場、そういうところが妙高市にはこれからの課題だと思うんですよね。それに向けては1年、1年私たちも頑張って、良いふうになるように議会で発言して参りたいと思いますので、その点を御理解をいただきまして、いろんな面で協力していただきたいと思います。

○市内男性D ありがとうございます。

○司会（高田保則） よろしいでしょうか。次、どなたかございませんでしょうか。

きょう女性の方お二人お見えですがいかがでしょうか。何か御意見ございませんでしょうか。先ほど圃場整備の関係も出ましたが、ここ2、3年妙高市で非常に圃場整備が盛んに行われています。私の住んでる妙高高原地域でも昨年からの約16町歩の圃場整備行っております。また高柳地区も、圃場整備をやっておりますし、この地区も圃場整備を行うことで、一応農業政策については集団化、集約化ということでその辺で圃場整備してるわけですけども、その辺で集約化、集団化、大規模化しますとなかなか、一反二反つくってる方は農業に携われないという問題も出てくるようでございますが、その辺農業問題いかがでしょうか。

この地区の圃場整備どういう形で行うか承知していませんが、大規模化やってるところはやはり、一反二反の人たちは集約されて、五反歩田んぼ、一町歩田んぼとなると俺の持ち分がなくなるということで、農業を離れる方もいらっしゃると思いますが、そのような関係もありますので、圃場整備についても皆さんのお考えがあれば、いかがでしょうか。

それともう一つはですね、今子育て環境、働く場所という話も出ましたが、今妙高市でも工業団地だとか、2箇所ほど工場団地、いわゆる企業誘致をやってるところがあるんですが、なかなか御存知のとおり、全国各地で企業誘致やってるものですから、なかなか実績が上がらないということで、雇用関係はあまり好転はしていないんですけども、この長い好景気が続いていると国の言い方ですけども、その辺も含めて皆さんの御意見等をお聞かせいただければと思いますいかがでしょうか。まだ時間がたっぷりあります、意見出していただいて、どんなテーマでもいいです。きょうのテーマ子育て、農業でなくても、例えばにじいろ保育園の対応だとか細かいテーマでもいいですし、御意見あればと思います。

○建設厚生委員長（堀川義徳） 私さっき、〇〇さんのいわゆる農振外れている農地の扱い、今非常に荒れてるところが多いということで、先ほど産経の議員の方がおっしゃいましたが、御存じのとおり今新潟県は園芸を進めているということで、農業やられてる方は、大体わかるかと思いますが、一反歩コシヒカリつくって10俵つくったとしても14万ですよ、上がりが。園芸だと面積あたり非常に高い群馬行くと、70万80万という。手間はかかりますが、本当に大きな圃場をつくれるところは大型化して水稻やっただければいいんですが、本当に小さくて、形の悪い、しかも水かかりの悪い農業られてる方はわかるんですが、畑っていうと水がいらぬんですね。仮に長野の信濃町行っていただければわかるんですけど、こんなうねってる、平らなところなんてないですよ。ずっと真っ直ぐなところ、平らなところがないところで、園芸をやるということで、園芸をやると思った場合に、手間はかかりますけど、非常に狭い範囲で高収益も得られるということもありますので、例えば自分でやるのではなくて生産法人の方々が、空いた時間でそういった水稻に向いてないような土地を使って園芸をやるというようなときに、元々の地権者の方が手伝いかという形で、時給いくらで働いてという働き方もあるのかなというようなこともあって、恐らく今の栗原、柳井田ですと農振除外地といいますか、農振が入っていませんので圃場整備はちょっと難しいと思いますし、そのままの小さい圃場でいって、水稻ということに関してこだわると担い手がいないことというようなことになりますので、畔抜いて平らにすると畦畔が大きくなりますよね。そうなった時に農林課で真ん中に農道だけ切ってくれと、あとは地権者の方々がもういいよという形になれば、全部一面畑にして平らじゃなくていいわけですから高低差なりに行くとそういった使い方もあるのかなということで、可能性的にはそういった使い方も、もしくは少し農地を持った団地、住宅団地にしていくという形にしていっても、今のままではやってくれる人は水稻という形では担い手が恐らくいないと思いますし、どんどん農地が大きくなってきたり機械が大型化してくれば来るほど、担い手さんは優良な土地を求めていくというと思います。それは地域で例えば、こういうことをするんだから農林課、農道を切れと、真ん中に切れというような個々でなくて、面的に大きなスタンスでいかない

と、うちの畑をなんとかしてくれっていうことではなかなかいかないと思うのですが、例えばこの2町歩を細かい田んぼを実は真ん中に農道切ってもらって、両サイドを園芸のために使うんだっていうことであれば、そういった要望であれば、議員としたり色々予算付けは可能かなというふうに思います。

○市内男性C 農振除外者と補助金が全然全くないということで来ているから、色々考えてもしょうがないなということで、確かに〇〇さんの場合は、今議員が言われたように上の田んぼから下の田んぼまで渡していく 本当に昔の田んぼなんて、それと農道が狭いから大型機械が入れないから借りるわけには行かれませんということで、苦労したんですけど、道の端で大きい田んぼ借りてやっていく、そういうそんな形でも補助金が出るよという形になれば、色々あると思います。ただ園芸は非常に手がかかるんで、これから手をかけないでやるということになると、機械化にするにちょっと必要だと私も勉強させてもらって身にしみて感じています。それと議員が言われたようにまだ働ける余力がある年寄りが遊んでいる方がいるんじゃないかなということで、そういう方の活用も色々考えていただければありがたいなというふうに思います。先ほど副議長が言われたように職場がないと最終的にはまたせつかく大学行っても自分とこ戻らないで都会で就職しちゃって、そうなる则ちだんだん衰退していく、人口減少がもうさらに拍車かかっているというのがあるので、とにかく妙高市だけじゃなくて上越市も含めて、その中でようするに就職するような職場を確立していただければありがたいなと。妙高市だけではちょっと難しいという点がありますので、今、車社会ですんで私だって直江津まで40年近く通いました。そういうあれがありますので広域で考えてそういう素晴らしい職場をつくっていただければありがたいなと思います。よろしくお祈りします

○司会（高田保則） はい今、改めて広域の環境づくりということでどうかということのお話ですが、いかがでしょうか。

○産業経済委員（岩崎芳昭） その前に、特に和田地区の場合、農振の入っていないところが、いわゆる虫食い状態に計画的にただ路面の道路に面しているところが表向きだけいわゆる宅地化して、後ろの背後地が結局農地という形の中で、背後地の利用がなかなかうまくいかない部分であるなと思っています。それは30年も前からそういう形で来たんですが、その中でただ住宅と混在している中ではですね、一つとすれば逆に周りの非農家の皆さんから見ればそこに田んぼがあり、水田がありという中では、環境的には恵まれている部分もありますし、もう一つは災害の時にはそういうところが避難場所になり、また防災の面で役立つ部分もあるのかなと、ただその中でなかなか高齢化してくると農業そのものが、特に水田の場合は大型機械とか高額な機械が必要で、畑の場合はそんなに高額な機械がいらない。ただ手間はかかるがということを見ると、これのこれからの高齢化社会を考えると、生きがい型の農業、私の中での取り組み新しい展開の中でまた進めていかなければいけないというふうに考えております。

○産業経済委員（樗沢諭） 関連するところで商工業について、皆様とともに具体的に振り返っていきたいと思います。私のも小さい頃には商店さんがいっぱいあって、近いところで平成14年妙高市の商店の点数が526店あったということで、従業員さん働いてる方が2500人ぐらいいた。それが平成19年になったら442店になったということで、現在はどうなったかは把握していませんが、そこから推測すると相当商店数が減っていると、後継者の問題とか様々な問題があります。また、工業統計による市内の4人以上の事業所についても平成29年度は59の事業所があって、事業所っていうのは生産高とか売上とかがあるんですがそういう出荷額が1043億円ぐらいになる。それが今目標にして平成31年度の目標は65に増やして、売上高生産高も1400億円ぐらいにしたいというふうに取り組んでいるんですけど、現在はなかなか厳しい状況にあるということで、市長も最近テレワーク企業を推進するというので、こちらにある空き家になっているところ、また店舗空いているところを活用しながら、大きな施設はつくらないで通信機器技術を生かした、そういう企業誘致をして雇用の人数を出していくという形の企業誘致

を今進めているという状況であります。しかしながら、どこの地方の市でもやっている事業でありますから、もっともっと具体的に魅力あるものにしていかないとなかなか若い人は来ない。しかしながら新幹線も開通しましたし、信越道も4車線化しましたので東京までは2時間弱ということでもありますので、先ほど言われたとおり地域が本当に地域でもってどうやるかと、妙高・上越・糸魚川合わせて約20万。長野この近辺合わせて70万から80万の地域が一つになって物事を考えてる時代に入っていったなと感じています。以上でございます。

○司会（高田保則） 大変大きな問題で難しい問題でということですが、現実には妙高市に住んでみますとそういう課題がひしひしと感じられてくるのが現実だと思います。なんとか皆さんのお力で、行政は御存知のとおり、先程お話ししました、妙高市の31年度予算が一般会計201億6000万円ぐらいしかないわけです。そんな中で今までの事業をやっているわけですが、最近は行政にだけ頼っていくことがなかなか難しい時代でございます。地方の自立と言いますか、地区の自立が重要視されているような傾向であります。そんなところで和田地区、唯一妙高市でも人口がふえている場所でございますので、その辺の皆さんのお力を期待してと思っていますがいかがでしょうか。議員のほうで何かテーマ、こんな問題を皆さんどう考えてるとか、お聞きしてもいいんじゃないかと思うんですがいかがでしょうか。

○建設厚生委員長（堀川義徳） コミュニティで何かありますか。

○市内男性E きょうのテーマに子育てがあるんですけど、育てるといふか子どもの安全、お年寄りの安全っていうのは、昨年3歳の子供が用水に流されて亡くなって、何年か前にもお年寄りが用水に落ちて死んだことがあるんですけど、にじいる保育園の横にもかなり大きな用水が流れてますんで、ああいうところに安全柵を付けたとかしてもらえればいかなというふうに思います。大変金かかると思うんですが、私も建設の仕事をしているんですが、柿崎とかあちのほうに行きますと水がないんですね。困るので300ぐらいのパイプでずっと田んぼの脇に敷設して、そっから水を配ったりしているんですね。この辺は雪がいっぱい降るので水には苦労しないと思うんですが、そういうところで、そういう環境にするなり安全を考えていただければと思います。以上です。

○司会（高田保則） 最近中核都市でも用水というものをどうやって安全対策するかっていうのが取り上げられておりますが、妙高市でも農業用水の安全対策というのがそんなに話題にならないわけですが、いかがでしょうか。

○建設厚生委員長（堀川義徳） 実はこれ、私も土地改良区の人に相談受けるんですが、今まで農道の脇、仮に用水の脇に仮に市道が通った場合は、川に落ちた場合、我々してみれば農業用水なんで、市の農林課に聞くと土地改良区の管理下だという話しになって、土地改良区で予算を取ることはないの、それは農林課の所管だという話しいくと、農林課はそれは市道歩いて落っこちた人が悪いんだから、市道の管理下だということで、建設課になる。建設課と農林課はどちらも責任取らないで、それは市道の管理、市道の安全管理上農道に蓋をかければいいと、建設課は農業用水なんだか農業用水管理者が責任を持つべきだということになっている。上越はちなみに100万円を上限に安全管理の工事はお金を出してくれるっていうことで、関川土地改良区の方から言われていて、妙高市もそういった形で、どっち所管が農林課だろうが建設課だろうが歩いてる人が危ないとなれば何とかしてくれということで、話を受けているんですが、なかなか昨日も実は関山地区で用水関係の話があって、それは農業用水だから農林課だ、いや川だから建設課だみたいな話があって、こういったところで水が通る場所に対して所管がどっちだという、お金がどっちが払うんだという問題になっていて、そういうところに非常に問題になっています。何かありますか。農林課のほうは何か情報ありますか。

○産業経済委員（岩崎芳昭） 上江用水は全て施設管理者によって直させた例はある。世界灌漑施設になっている上江用水ってのが川上から上越市まで約23キロぐらいの水路があるんですが、そこについてもいわゆる遺産に認定さ

れてから見学者が非常に増えてきたものですから、落ちたら危ないということで、そこについては施設の管理者が関川水系の土地改良区ですので、そちらのほうに要望をして、そこで安全柵を設置してもらった。今も今度、上江用水の穴栗いわゆる隧道についても、いわゆるその下のほうも見学者が来るわけですから、落ちた場合上がれないので、そこも今事務所から安全柵を付けてもらう、そんな形で私らのところで対応している。農林課のほうに要請ってというのは聞いてないんですが、経由してそちらのほうに申請するっていうのも連絡取りながら、上部機関のほうに要請するというのはやぶさかではないと思います。

○市内男性E 今お話を伺った、上江用水、数年前から防護柵とネットを確認しています。うちの部落、広島でも10ヶ村用水、中江用水があるんですが、中江用水は上越市堺のほうにあるんですが、10ヶ村用水が部落の真ん中を通っているので、ぜひ安全柵とか子どもに関してもそうですし、お年寄りのほうも畑に行ったりするので、車も落ちたりするのでそういうものを要望したいと思います。

先ほど子どもさんが流されたという話をしましたけど、見つかったのは上越の川まで流されてるんですね、3キロも4キロも。ですから途中100メートルに1カ所くらい柵を設けて、ゴミが詰まったりするから管理するひとは大変だと思いますけど、柵があればすぐ見つかると思うんですけどね。それはあまり金がかからないと思うんですけど。そういうところで知恵を出していただいて、郊外に行ってしまう方がいいと思うんですが、住宅密集地ぐらいはそのような対策をとってもらえればいいのかなど、市のほうから所管が土地改良であればそちらのほうに要望出していただければと思います。

○司会（高田保則） 議会でもリスク管理、特に農業用水のリスク管理をどうするか、あまり私どもあまり取り上げてなかったんですが、これからはそういったことも取り上げていかなければならないと思いますので、大変参考にさせていただきます。ありがとうございました。

ほかございますでしょうか。まだまだ時間たっぷりありますので、ぜひ。

○市内男性F ○○です。つい最近の事例で御意見を伺いたいんですけども。実は、旧和田保育園の南側に公園があります。そちらの中に遊具があるわけです。ブランコがあって2連のブランコですけど、踏板が30年ぐらい経過して劣化しているということで、公園ですので建設課に相談したところ、管理は町内ということで委託しているということなんです。業者から来て頂いて話を伺って見積もりをいただくことにしました。当然町内に委託されてるんであれば町内で費用を負担する。ただ、そういったところ町内に多くなると思うんです。もし、けががあった時には使用していて、子どもさんがもし、けがをされたそういったところまで踏み込んで話が出たんですよ。管理委託されてるということであれば、町内のそういったものの保証になるのか、もしおわかりでしたらお願いしたい。

○建設厚生委員長（堀川義徳） もともと遊具がついた状態で指定管理とかされたんですかね。それとも何もない状態で○○さんがつくって自分たちで、要は遊具をつくったのが市なのか町内なのかってところであれなんですけど。

○市内男性F 実は遊具のほうに銘板貼ってあります。社会福祉協議会と書いてあります。

○産業経済委員（樗沢諭） 市で責任を持たなければならないと思います。

○司会（高田保則） 地域で管理とか指定管理とか色々抱えて、農業関係で管理して出しているのか、建設課で出しているのか、総務で出しているのか、いろいろあるんですけど。社会福祉協議会ってことになれば建設厚生でしょうかね。

○建設厚生委員長（堀川義徳） 恐らくそういうところも多いですよ。そういった形でつくったのはいいけど後は地元で管理してくださいっていうことになって、壊れたら地元で直すか撤去も地元となると、つくるときだけつくって、新しいものを提供して、あとはおまかせっていうことになると非常に町内でも別になくてもよくなって。

- 総務文教委員（霜鳥榮之） その公園どこの事業か、確か農林事業でやってるんじゃないかな。ブランコを設置するんじゃないくて工事そのもの。児童公園そのもの。
- 建設厚生委員長（堀川義徳） 月岡団地をつくる、団地をつくる、その何パーセントの公園をつくりなさい。都市計画上の公園だと思うんですね。ただ遊具がなんで社会福祉協議会なのか。
- 産業経済委員（小嶋正彰） 開発は市に帰属させて上物は…。
- 建設厚生委員長（堀川義徳） 管理どこなんですかね。撤去するのも金かかりますよね。
- 産業経済委員（小嶋正彰） 土地そのものは市です。
- 建設厚生委員長（堀川義徳） 銘板見てちょっと、6月に所管事務調査と言って、我々が所管課に集中審議みたいなので、そこに聞いてみます。実際に市内にどれくらいあるかということで、各町内でいろいろそういうことが問題になって、実費でもし直ったり撤去したりすることがあれば、実はそれ申請すればいわゆる設置したところが責任をもって直すなり、撤去するのであれば町内の負担がないと思うんですけど。
- 市内男性F 恐らく地元管理だと思います。地元管理に対して、地元で保険入らなくてはいけないんです。入るのに対して市で補助するとかの制度のほうがいいと私は思います。地元管理ですよと言われると地元で保険に入らなくてはいけない。保険に入るのに対して、保険料くらい市で出しますよと、そういう制度をつくらなきゃいけない。
- 建設厚生委員長（堀川義徳） もしいらないってことになれば、子どもも遊んでいないし、もういらなくなれば、どうするのか庁内で壊さなければならないのか、あくまでも設置したところが責任を持って壊すのかということところだと思うので、それ6月の議会にまた聞いてみたいと思います。
- 市内男性F 広島にもブランコがあるがあって、そういう意味で位置づけが出来てないので、あちこちにそういう問題があると思うんですけどね。
- 産業経済委員（樗沢諭） 公園はいろんな種類があるんですよ。堀川議員は6月って言ってますけど、即来週になたっていい。その今〇〇さんが指摘された公園がどうゆう経緯でつくって管理はどうなっているのかを議会として調べて、一週間以内くらいに皆さんに報告できるようにしなければ、いけないと思いますよ。そういう形で進めていくことが大事だと思います。
- 市内男性F すいません。ありがとうございます。よろしくお願いします。
- 司会（高田保則） 一つの課題がまた出来ました。早急に解決の方向に向かって協議していただきたいと思います。ほかにございませんでしょうか。もうお一方ぐらいいかがででしょうか。よろしいでしょうか。せっかくの機会であります。なかなかこういう形で皆さんの御意見を聞く機会が少ないのが現状でございます。せっかくの機会でございますので、もうお一方ぐらいいかがででしょうか。ないようでございますので、5分前でございますが大変貴重な御意見ありがとうございました。以上をもちまして本日の議会報告会・意見交換会を閉じさせていただきます。大変ありがとうございました。

閉会 午後 8時15分